

郷土の証言

町村知事を思う

金村 優

私が町役場に勤務していた四十五年の間に忘れられない思い出があります。それは町村知事との出会いです。

町村知事は北海道開拓の礎となる町村牧場の出身で、終戦まで警視總監、戦後は富山、新潟県知事を歴任されました。昭和三十四年（一九五九）、北海道知事に当選され、就任後に道内を巡回視察されることになり、十勝入りして狩勝峠を視察先に指定されました。その頃、私は先輩諸氏いる中、総務課長に任命され戸惑っている時だったので、平野町長より今日知事が来町されるので同行するように言われ、狩勝峠で待つことになりました。待つ間もなく知事の車を先頭に大勢の車が峠に到着されました。その日、峠は見渡す限りの快晴に恵まれ、知事は峠に立ち広大な十勝平野を一望して満足している様子でした。

付き添いの方から説明をしてくださいと言われ、私は町長はと思い周りを見回しましたが、近くに見当たりません。知事にすかさず君が説明してくれと言われ、私は突然のことでしたが、迷っている余裕もなく、自分で知る限りのことを説明しました。知事は十勝川やトムラウシのことはよくご存じのようでしたが、私は新得に一番関係深い川、佐幌川を特に力を入れて説明したと記憶しています。

峠の展望台に知事と並んで立ち、大展望を眺めながら自分の感じのまま説明しました。予定時間が過ぎて同行の方々には心配していましたが、

知事は一向に気にせず、私の説明を熱心に聞いてくれました。眼下の目の前に広がる福山の眺めながら、福山の農家の人たちはどのような様子かと聞かれたので、私は離農者の出ていることや入植当時ことなど現況を説明させていただきました。

時は過ぎて、昭和三十七年（一九六二）八月三日、台風八号による大災害により町内では家屋三十戸と橋梁のほとんどが流失しました。国鉄も狩勝峠近くで路床が決壊し、復旧工事に一ヶ月程かかりました。三日後、私が被害調査のため町内を巡回中に突然道庁の秘書課長が見えられ、知事からの伝言があるということでした。私は「町長に会って伝えてください」と申し上げましたが、秘書は知事の伝言は金村へということと、「今回は大変な災害だが、あまり心配しないように」との内容でした。私は、知事の言葉に恐縮し、秘書課長に丁寧に敬礼を述べ、落合駅までお見送りしました。この秘書課長は北大出身で、その後道庁の幹部である出納長になりました。

町村知事の伝言どおり、その後の町の災害復旧に対し「道」からはなにかと配慮をいただきました。知事の心配りに、当時の私はただただ頭の下がる思いでした。

まず、災害復旧工事で佐幌川の本流工事と日高山脈からの各河川の整備が、きわめて順調に通常よりも早く完成できました。

次に、「佐幌ダム」ができたこと。ダム建設は、当時道内でも希望する町村が多く、要望してもなかなか実現困難な事業でした。しかし、新得は十勝ダムと併せて実現しました。特に佐幌川上流にダムができることで下流に住む市街地住民は、安全・安心な生活が保障されました。また、佐幌ダム上流が整備され、大規模キャンプ施設が設けられましたが、この施設によって町の観光地としての条件が揃いました。

町村知事はさらに狩勝牧場の誘致にも積極的

に関与されました。昭和三十五年（一九六〇）、トヨタ自動車社長神谷正太郎氏が、勲二等叙勲の記念に牧場を福山に設置することになりました。私が峠で福山地区の説明をしたことが牧場経営者でもあった町村知事の頭にあり、狩勝牧場誕生になったものと思われまふ。知事の将来を見据えた判断にあらためてその才能、才覚に敬服しました。

狩勝牧場は、設立当初から元鹿追町長であった桜井氏、その後場長となられた早川、和田両氏の尽力で順調な経営が続けられました。その頃農林課長だった私は、畜産に携わっているとして学ぶことが多くありました。現在は吉本場長が堅実経営を行っており、昨年の四十周年式典では今後の経営方針が示され、繁栄を続ける狩勝牧場は、我が事のように嬉しい限りです。

私たちの町には畜産試験場、林業試験場、共働学舎、狩勝牧場などがあり、狩勝峠のふもとにはスキー場、ゴルフ場、ホテル、ダムの観光施設が多く、温泉もあり、道内を見回してもこのような観光的要素の好条件の揃った町はありません。さらに道東高速道の完成したこともあり、大観光地として町民こそって大なる夢を持ちたいものです。

郷土研究会も発足三十年を迎えましたが、郷土研究は過去を知ることのみでなく、知り得たことを基礎にして未来を考えるべきということ

は、町村知事の教えに通じることだと思ひます。狩勝峠で私の覚束ない説明を熱心に聞いていただいた町村知事との出会いは、私にとつて生涯忘れることのできない思い出であり、誇りでもあります。新得町の地の利を活かし、さらに発展させていくことが町村知事の意志に込められていることだと思ひております。

町村金五〇三十四年の道知事選の新人対決で横路節雄を破り、北海道知事を三期務めた。